

ポジティブインパクトファイナンスタスクフォース(第6回)

議事概要

1. 開会

白石隆夫・大臣官房審議官より、開会の挨拶があった。

2. 議事(1) 「グリーンから始めるインパクト評価ガイド(仮)」本文案について

(1) 事務局より、資料1-2「インパクト評価ガイド本文案_第5回からの変更履歴」本文案を用いて、本文案の説明があった。

(2) 当日、各委員より以下のような意見があった。

● 「1. はじめに」について

- 全体感は違和感ない。タイトル『グリーンから始めるインパクト評価ガイド』も素晴らしい。
- IMM など、インパクトファイナンスに関する国際議論をニュートラルな視点から汲み取った点を評価したい。
- 前回より内容を補強し、より良くなっていると思うが、読者目線で見ると、事業会社の方が初めて読んだときに理解できるようにするためには、囲みの内容が重要になってくると思う。このガイドを通して読む人はおそらく少数で、拾い読みして使う方が多いように思うので、修正するかどうかにかかわらず、囲みの内容を今一度見直したほうがよいのではないか。
- 「1. はじめに」の囲みの3つ目の○と4つ目の○は逆の方がよいのではないか。3つ目と5つ目は似たようなことを言っているのでまとめてもよい。
- P.3の囲みの2つ目の○で、「大規模な民間資金を巻き込む必要がある」というのは正しいが、その民間資金が無駄に使われるべきではないので、「インパクトが重要なのだ、インパクトを追求しながら民間資金を巻き込む必要がある」ということを示されてはどうか。また、読者の使いやすさを考えて、索引を作ってみてはどうか。
- 「特に、本評価ガイドは「グリーンから始める」と題し、～」というところに、日本としてカーボンニュートラル宣言をしていてこれを目指すからこそグリーンから始めるのだというニュアンスが加わったほうがよい。
- インパクトファイナンスは意図を持つことが重要。昨日も「投資マネーの2割が脱炭素に対して2,000兆円」という記事も出ていたとおり、脱炭素に関しては意図を持つ投資家が事実としては増えているため、グリーンから始めることが理にかなっているという書き方もあるのではないか。

- 環境問題は世界共通の課題なので、そのようなまとめ方をするのもよいのではないかと。また、一般読者が見たときに「アウトプット」や「アウトカム」の意味が分かりづらいと思うので、時間が許せば、用語集のようなものもあるとよいのではないかと。

● 「2. (1)インパクトの特定」について

- 囲みの3つ目の○で、「個々のインパクト」という表現があるが、「個別のインパクト」とするほうが平仄が合うのではないかと。
- まずニーズが存在し、インパクトはそのニーズに応えるという関係にあるので、日本のインパクトニーズがインパクト特定にどのように関わるのか、一文でも追記できるとよい。
- 「コア・インパクトの領域が複数特定されることもありうることに留意が必要である」とあるが、むしろ複数特定することは歓迎すべきことと考えるので、「複数のインパクトを特定するのは差し支えない」という表現はどうか。
- 「なお、…インパクト包括型において説明する UNEP FI のポジティブインパクト金融原則の考え方と、インパクト特定型において説明する IMP の考え方は、いずれも相互排他的なものではなく…」の部分や「B) インパクト特定型」の説明など、丁寧に書いた分、初めて読む方にはかえって難しいのではないかと。
- 「b) インパクト特定型」の記述について、「ファンドベース」ではなく、「ファンド」でよいのではないかと。
- IMP の ABC 区分の活用の説明は「ファンド・レベルでのインパクトの特定についてもより大きなインパクトを目指す」というニュアンスを伝えられるように記述すべき。

● 「2. (2)インパクトの事前評価」について

- 「明示的に計測することは必須ではない」とあるが、「計測」は「測定」という言葉で統一したほうがよい。

● 「2. (4)モニタリング」について

- 囲みについて、「定量的目標を設定している場合は」と記載すると、定量的目標設定が追加的な取組である印象を受ける。定量的目標の設定は原則なので、そのような書き方をしたほうがよい。
- 囲みの下の一文について、全てが「望ましい」もののように読める。「定量的な達成度」の評価は「望ましい」ものではなく「必須」だと思うので、書きぶりを見直したほうがよい。

● 「2. (5)情報開示」について

- 囲みに主語を入れたほうがよい。

● 「3. インパクトの管理体制の構築」について

- 管理体制を作っていくことが重要なことは読んでいくと類推できるが、「適切な管理体制」は何があればよいか分かりづらい。書き下してもらえるとよい。

● 「4. 独立した評価を行う場合」について

- 「(2) 評価機関」の「内部の部門に評価を依頼する」場合の説明を丁寧に行い、揚げ足を取られないような書きぶりに修正したほうがよい。
- 「インパクト評価」と「独立した機関による評価」のように、どちらも「評価」という言葉を使うと、混乱を招くのではないか。「レビュー」などとしてはどうか。評価機関では、金融機関などによる自己評価を「第一次評価」、評価機関による評価を「第三者意見」「外部レビュー」というように使い分けている。

● 付属資料について

- 「情報開示事例集」の貼り付けられている画像の本文の英語が読みたい人にも読めるような工夫をしてもらえるとよい。

● 全体を通して

- 「基本的考え方」の際と同じように、概要をパワーポイントなどでまとめたものがあるとよい。
- 評価ガイドは PRB に加盟していない金融機関にとっても使いやすいものになると思う。
- この評価ガイドをいかに使ってもらうかが重要だと思うが、地域金融機関が「インパクト」を評価軸に入れることのインセンティブ付けが難しいと思う。インパクト評価が当たり前になるような地ならしがあって初めて評価ガイドが生きてくるので、金融機関、事業会社の双方で裾野をどのように広げていくかが今後の課題。

3. 議事(2) インパクトファイナンスの今後の普及展開について

- (1) 引き続き、「インパクト評価ガイド」の今後や、インパクトファイナンスの今後の普及・主流化に関して、意見交換を行った。

- (2) 当日、各委員より以下のような意見があった。

● インパクトファイナンスの今後の普及展開について

- 今後インパクトファイナンスを広げるにあたって、委員の事例やインパクトファイナ

ンスを実践している方の事例紹介・共有がTFの場合であるとよい。SDGs 私募債などの地域金融機関や地方自治体の取組例があってもよい。

- 感応度の高い自治体は、中小企業の巻き込み方などをよく検討されている。地域金融機関のほかにも、地方の大学もインパクトファイナンスの立役者になるのではないかと。環境省のゼロカーボンシティの取組とつなげるというのも一案。
- 評価ガイドのより簡単なバージョンや豊富な事例の蓄積があるとよい。
- 好事例の収集・共有に賛成だが、事例集に関心を示すのは既にインパクトファイナンスに取り組む意欲・興味を持つ人である。そうした人たちばかりではないので、インパクトファイナンスに取り組むインセンティブの提示も必要。社内でインパクト投資を立ち上げるとき、①なぜインパクト投資なのか、②どんなメリットがあるかの2つを社内で説明するのに苦労したので、インパクト投資に対する利子補給や、法人税の減免といった措置がインセンティブになりうるのではないかと。
- 投資家コミュニティに丁寧に説明していくことも重要。生保業界や損保業界等で様々な理由でまだ取り組めていないものの、インパクト投資に関心をもっている機関がある。
- インパクト投資は金融の観点からも魅力的であると考えられる。世銀とハーバード大学でIFCの出資案件についてリターンの状況を調査・研究したのものがある。機会があればIFCからも情報共有したい。
- 海外の人と話すと、インパクト投資を推進するのに補助金が必要だという話は聞かない。金融資本市場のあり方全体を含めて、我々は真剣に考えていくべき。
- 事例を集めるのは良いと思う一方で、このタスクフォースの委員が知らない好事例が世の中にまだまだあるというのも考えにくい。実務に落とししていくことを考えると、特定のインパクト領域を具体的に取り上げて、ケーススタディ的に実際にインパクト評価をやってみることによって事例を自ら作りに行く、という方向で掘り下げるのも一案。例えば、カーボンニュートラルというインパクト領域は関心も高く、取り組みやすいのではないかと。

● 国内外のインパクトファイナンスに関する勉強会・イニシアティブとの連携

- 既存コミュニティを活用していくことが同じような取組を乱立させずにインパクト投資を推進していく近道ではないか。投資家タイプによって、規制環境などが異なり出来ることが異なる。
- アセットクラス別にインパクトファイナンスを見ていけるとよい。エクイティでのインパクト投資は期待できる。リターンを出している事例を紹介していけるとよい。デットのインパクト融資は低金利な状況を考えると難しいところがあると思う。
- どんなアセットクラスでも、インパクト評価ができる人材育成をしていく必要があると実感している。インパクトトレーダーを使う練習を積んでいくなどの勉強会を通じて

経験を積んでいけると有意義。

- 業界横断的な取組が必要。
- TF の担うべき役割として①インパクトを追求していく理念の共有、②情報や様々な取組の関係性の整理（評価ガイドの改訂、ガイドの正しい読み方の情報発信）、③目利きの力を高めるための取組（人材育成、モデル事業、勉強会等）などがあるのではないかな。
- 経営層の考え方を変えることも重要。ESG ハイレベルパネルのような場での情報発信や働きかけることも有意義だと思う。
- インパクトファイナンスアワードのようなものがあると、継続的にどういった取組が良いかということを発信できる。
- インパクトファイナンスの広がりを見るとときに件数や金額で見がちだが、インパクト発現の規模で考えることも有意義だと思う。

以上